

【概要資料】

聖ラファエル校との 交流事業について



編集・発行：白石市国際交流支援協議会事務局
（白石市まちづくり推進課内）

令和8年3月 発行

目 次

- ① 白石市の国際交流事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ② オーストラリア・カウラについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ③ 交流校について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ④ 聖ラファエル校との交流について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ⑤ オーストラリア友好親善訪問団派遣事業について・・・・・・・・・・ 3～5
- ⑥ 令和7年度派遣事業に参加した生徒の感想・・・・・・・・・・ 6, 7
- ⑦ 聖ラファエル校受入事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7～9
- ⑧ これまで受入事業に参加した保護者の感想・・・・・・・・・・ 9～13
- ⑨ これまで受入事業に参加した生徒の感想・・・・・・・・・・ 13
- ⑩ よくある質問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

事業参加をご検討中の保護者の皆さまへ

この資料は、聖ラファエル校との交流事業参加をご検討されている保護者の方向けに作成したものです。

応募したいと思っても、「交流事業がどんなものか分からない」「どんなことをするのか不安」といった事情で、申し込みをするか悩んでいる方に、この資料を読んで「申し込んでみよう！」と一歩踏み出す勇気を与えられる資料になれば、という思いを込めて作成しました。

言葉や文化、生活習慣が違う外国人を受け入れることは決して簡単なことではなく、保護者の方が一番不安を感じられるものと承知しております。

国際交流は、参加されたお子様のみならず、保護者の方、ご兄弟、地域住民など様々な方にとって、これまで知らなかった文化の多様性について外国人を介して知る機会となります。また、相手の文化を尊重し理解することによって、他者との違いに対する寛容さを身につけることができ、このような小さな交流は、子どもの将来の大きな礎となります。

地域社会全体で目標を共有し、未来を担う子どもたちの成長を支える、この国際交流をぜひ、ご家族で体験していただければ幸いです。

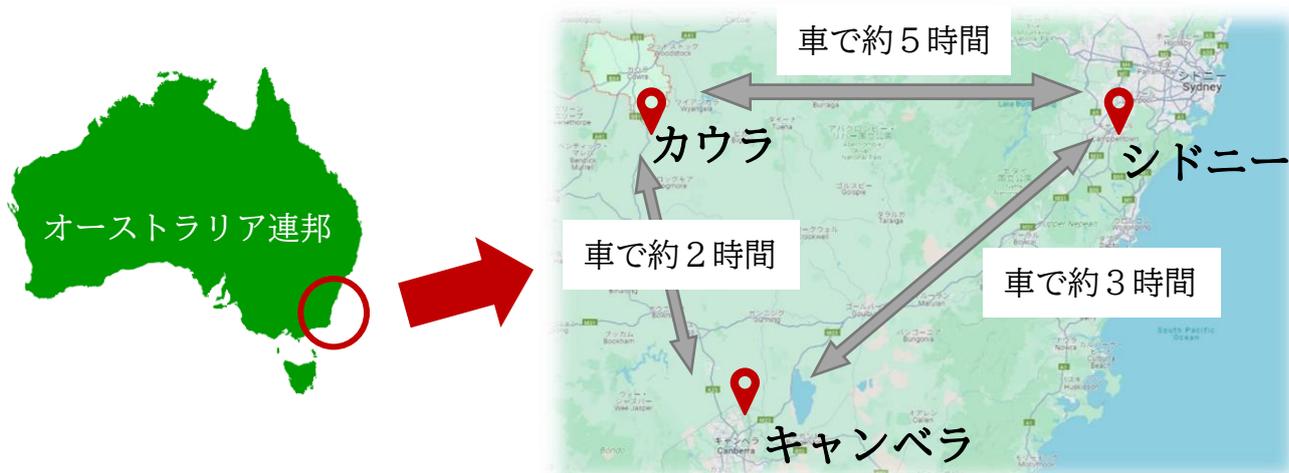
1 白石市の国際交流事業について

1994年(平成6年)から国際姉妹都市として交流をしてきた「オーストラリア・ハーストビル市」が2016年(平成28年)に隣接市と合併し、青少年の相互交流が継続できない状況となりました。

そこで、当時、国際交流コーディネーターとして本市の国際交流に尽力いただいていた方から、オーストラリア・カウラにある私立学校「聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラ」を紹介いただき、2019年(令和元年)から、新たに青少年の相互交流が始まりました。

2 オーストラリア・カウラについて

- 位置
 - ・ニューサウスウェールズ州
 - ・シドニーから西へ約320kmに位置し、車で約5時間
 - ・首都キャンベラからは、車で約2時間
- 人口
 - ・約1万人(※移民は人口のほんのわずか)
- 季節
 - ・南半球にあるため、日本の**真逆**(※中学生が訪問する時期は**冬**)
- 時差
 - ・日本より1時間早い(※夏時間(サマータイム)期間は、日本より2時間早い)



3 交流校について 交流学校名：聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラ

聖ラファエル校はカトリックの私立学校で、幼稚園児から高校3年生までが通う完全一貫校です。在校生徒数は、初等部(幼稚園～小学校)で300名程度、中・高等部で200名程度となっています。

学校のすぐ隣には教会があり、1年を通して特別な日には「ミサ(祭儀)」を行います。



4 聖ラファエル校との交流について

①オーストラリア友好親善訪問団派遣事業

市内在住であり、市内中学校に在籍している中学生数名をオーストラリアへ派遣します。

②聖ラファエル校受入事業

聖ラファエル校の生徒・引率を白石市で受け入れます。



5 オーストラリア友好親善訪問団派遣事業について

(1) 事業目的

オーストラリアに中学生を派遣しホームビジットや体験入学等の交流を通して、中学生の豊かな国際感覚を育み、互いの文化・価値観・生活様式等の理解と尊重を図り、友情をはぐくむことを目的とする。

(2) 派遣先

オーストラリア（シドニー、キャンベラ、カウラ）

(3) 派遣期間（年度により変更の可能性あり）

8月上旬からの10日間

(4) 訪問団の構成（年度により変更の可能性あり）

中学生 8名、引率 2名（団長（市職員）1名、副団長（学校教員）1名）

(5) 宿泊（年度により変更の可能性あり）

ホテル 7泊（シドニー、カウラ、キャンベラ）、機内 2泊

★ホストファミリーの割り当てについて

派遣生徒とホストファミリーの割り当ては、聖ラファエル校側へ一任しています。基本的には、同性同士の組み合わせになりますが、応募状況やホストファミリーの状況によりそうならない場合があります。また、1つのホストファミリーに2名の生徒がお世話になる場合もあります。

(6) 派遣内容

①ホームビジット (家庭訪問)	ホストファミリー宅を訪問します。オーストラリアの生活や食事、文化などに触れながらホストファミリーと交流します。
②聖ラファエル校での学校体験	ホストシスター/ブラザーと一緒に授業を受けます。
③聖ラファエル校での発表	聖ラファエル校の生徒に向けて、クイズ形式で日本や白石について発表を行います。
④シドニー、カウラ、キャンベラ市内見学	市内の建物や自然に触れ、オーストラリアの歴史や文化について学びます。

(7) 事前研修

訪問団員決定後、計5回の事前研修会を実施します。研修会では、訪問団員としての心構え、オーストラリア滞在中の様々なシーンを想定した「語学演習」や聖ラファエル校での発表の準備・練習を行います。

研修会は英語推進委員の教員をはじめ、白石市に勤務しているALTにご協力いただきます。

	内容(予定)
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ◆訪問団員としての心構え ◆自己紹介～アイスブレイク ◆探求学習のテーマを見つける、個人目標の設定 ◆各種あいさつの役割分担 ◆聖ラファエル校での発表について
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ◆各自設定した目標の共有 ◆グローバルコミュニケーションのルール ◆聖ラファエル校での発表の内容確認
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ◆英会話(ウォームアップ～ALTとのレッスン) ◆発表の練習
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ◆英会話(ウォームアップ～ALTとのレッスン) ◆発表の練習
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ◆英会話(ウォームアップ～ALTとのレッスン) ◆発表のリハーサル



(8) 事後研修

この事業で体験したことや成果、今後の目標などについて報告します。

時期	内容
8月下旬	解団式(報告会含む)
11月下旬	事後研修会

(9) 参加費用

①参加者負担金	【150,000円/人】 オーストラリアへの渡航費や活動費として、1人当たり約50万円～60万円程度の費用がかかります。そのうちの一部を負担金として納めていただき、差額は市からの補助金でまかなわれます。
②パスポート申請手数料 ※パスポート未取得の方	窓口申請とオンライン申請では、料金が異なります。 必要書類に不備があった場合の対応を考慮し、 窓口申請でお願いします。
③海外旅行傷害保険 (加入必須)	【約10,000円～】 派遣期間の病気や怪我、盗難などのトラブルに対応した保険に加入いただきます。詳細は、保護者説明会にてお伝えいたします。
④ETAS(電子入国許可証) アプリシステム利用料	【AUD20(2,000円前後) ※要クレジットカード】 オーストラリア出発1ヶ月前までに、各自必ず申請していただきます。

※ほかにも必要に応じて費用が生じる場合があります。

(10) 医薬品（処方薬・市販薬）の持ち込み

オーストラリアへの入国者には、旅行者向けの例外措置が適用されています。これにより、大半の医薬品、医療器具の場合、ご自身の使用目的ということで手荷物持ち込みが認められています（スーツケースには入れられません）。

①医師の処方薬	医師からの 処方証明書(英文) が必要となります。該当する方へは、個別に対応します。※金額はクリニックや病院によりますが、証明書は有料の場合がほとんどです。
②市販薬	事務局から配布される市販薬リストを提出していただきます。リストの作成・英訳は事務局で行います。薬の成分が判るよう、パッケージやラベルを剥がしたり、開封して小分けの袋などに移し替えたりしないようにします。

(11) その他

①服装(冬服)	私服、学校指定の体操着(学校体験時着用)。 ※私服については、人目をひくような派手な服装は禁止です。
②ペット・動物について	カウラでは、牧羊場を訪問します。そして、多くの家庭がペットまたは動物を飼っており、動物が苦手なお子様や動物アレルギーのあるお子様は、渡豪することが難しいと判断します。 ※ペット・動物の例:犬、猫、羊、鶏、牛、アルパカ、エミュー、アヒル、うさぎなど。
③健康について	渡豪する場合の必要な情報です。かかっている病気やもっているアレルギーの状況により医師からの意見書をご提出いただく場合がありますので、 <u>必ず応募前に事務局(TEL:0224-22-1327)</u> までご連絡ください。意見書は有料です。

(12) 派遣決定後をお願いすること

内容	生徒	保護者
①派遣生徒保護者説明会、結団式、出発式、解団式などへの参加	●	●
②事前研修会への参加	●	
③各種あいさつ ※結団式や聖ラファエル校での発表時など、様々な場面であいさつをしていただきます。	●	
④事前研修会以外での準備や練習など	●	
⑤ホストファミリーへのお土産の準備 ※高価なものではなく、100均などで買える安価なもので構いません(高価なものはホストファミリーが気を遣ってしまうため、お勧めしません)。	●	●
⑥事業報告書の作成(感想文など)	●	
⑦事後研修会への参加	●	●

(13) 派遣生徒の心構え

①この派遣事業は、学習の場として設けられている「研修」です。 観光旅行ではありません。代表として責任のある行動を取りましょう。
②市の代表として、何事にも積極的に取り組みましょう。
③ホストファミリーは善意で白石市の生徒を受け入れています。感謝の気持ちを伝えましょう。
④白石市の生徒が英語をうまく話せないことを理解しています。「伝えようとする気持ち」を意識してください。
⑤言葉が通じないという状況を経験することも大事です。

6 令和7年度（2025年度）派遣事業に参加した生徒の感想

1. 派遣事業に応募したきっかけ、理由を教えてください。

- ◆ 広報を見て行きたいと思い、小4からずっと勉強を続けてきて、去年オーストラリアに行った先輩から話を聞いてさらに行きたくなったから。
- ◆ 日本と海外の文化の違いや学校での過ごし方などを知りたかったから。また、去年学校にカウラの生徒が来て交流したので、自分もオーストラリアへ行ってみたいと思ったから。
- ◆ 日本だけにとどまらないで世界を自分の目で見てみたいと思ったから。
- ◆ 英語でのコミュニケーションを勉強したかったし、オーストラリアの文化を詳しく知ってみたいかったから。

2. ホームビジット期間中、一番心に残ったことや今後大切にしていきたいと感じたことなどを教えてください。

- ◆ 夕食を食べながら家族みんなと話したこと。沢山質問してくれて、家族や白石のことを話せた。自分の英語が伝わったときは嬉しさや達成感があった。この気持ちを忘れないでいきたい。
- ◆ 一番大切だと思ったのは、人との関わり。なぜなら、たくさんの人と関わることで、その人の人生経験を知って、これから自分がどうしたいのかを振り返るチャンスになったから。
- ◆ 言語が異なっていて、なかなか会話をするのが難しいけれど、YESかNOかをはっきりして相手とコミュニケーションを取ろうという姿勢を大切にしていきたい。
- ◆ ひとつの物事に対して夢中になったり、目的に辿り着くまで協力して行動したりすることは、とても素晴らしいことだし、大事な時間ということを忘れないようにしたい。
- ◆ 自分が笑顔になって会話をするとホストファミリーも嬉しそうに会話をしてくれるので、笑顔を大切にしていきたいと感じた。

3. ホームビジット期間中、困ったことや苦労したことがあれば教えてください。

- ◆ 質問を聞き取ることや自分のやりたいことを英語で伝えるのが大変だった。
- ◆ 洗濯ができなかった。
- ◆ 自分の聞いたことのない単語などがたくさん出てきて、分からなかった。お金を300ドル持っていったけど、思ったより余裕がなくて、もう少し持っていけばよかったと後悔した。
- ◆ 英単語の辞書はしっかり持っておくのがよかった。
- ◆ ファミリーがとても親切な人だったから、困ることは一切なかった。もし、困ることがあっても話したら理解してくれるから大丈夫。

4. 英会話で困ったことや事前研修の模擬会話にあると良いと思うものはありますか？

- ◆ 英語のスピードが速くて、何て言っているかを聞き取るのが難しかった。また、英語の発音の仕方が、自分の習っている英語の発音と違って、混乱した。
- ◆ サービスエリアみたいなののお会計で何かを話してくれたが、とても速くて聞き取れなくて相手から「もういいや…」って言われたこと。よく聞かれるフレーズはあった方がいいと思う。
- ◆ 行きたいところを尋ねられたときのシチュエーションが模擬会話にあるといいと思う。
- ◆ いろいろな説明をされたときなどは理解するのが難しかった。

5. 未来の訪問団員になる方へアドバイスがあれば教えてください。

- ◆自信を持って、自らアタック！
- ◆日本の味が恋しくなるのでインスタントのお茶や味噌汁などは持っている、友だちと懐かしむことができる。たくさん質問するととても喜ばれるから、質問はたくさんしておいた方がいい。後から「質問しておけばよかった…」ともならないですよ。
- ◆英語がうまく話せなくても、責められたり嫌な顔をされたりすることはないので、あまり不安に思わなくても大丈夫だし、自分のしたいことを聞かれた時は遠慮せずに言った方が相手も嬉しいと思う。
- ◆自分から話しかけると地元の人とのコミュニケーションがうまくとれるよ。
- ◆ホストファミリーといえる時や学校、どこにいる時でも必ず英語で伝えようとする気持ちを大切にしてほしい。会話や挨拶の際には笑顔が大事。
- ◆単語をたくさん知っておいた方がいい。
- ◆買い物は、最後にシドニー空港で買い物をするかもしれない。空港での買い物は高いけど品ぞろえがいいので、お金は最後まで残しておいた方がいいと思う。

6. この派遣事業全体を通しての感想や意見などがあれば教えてください。

- ◆たくさんの人に支えられてオーストラリアに行けて、たくさんのことを学べたのでこの事業はなくならないでほしい。
- ◆オーストラリアに行ったことで、自分の現在の英語力がどれくらいなのかを実感することができた。今回の派遣は、これからの様々な自信に繋がると思いました。とてもいい経験をさせていただきありがとうございました。
- ◆中学生でオーストラリアに行くという貴重な体験をさせてもらえて嬉しかった。やはり、英語だけの生活は大変だったけど、この体験をしたおかげで、「オーストラリアに住みたい」「もっと英語をうまくなりたい」と思うようになった。

7 聖ラファエル校受入事業について

(1) 事業趣旨

聖ラファエル校から生徒及び引率が来白することから、学校体験やホームビジットなどの交流を通して、多くの中学生が新しい価値観に遭遇し、国際社会への理解を深める。

さらに、海外への興味・関心を喚起し、自国と他国の文化や価値観などを比較し相対的に捉える視点や、異なる歴史背景を持つ人たちとの協調性と友情を育む。

(2) 来白予定人数

生徒 10名～12名程度 引率 2～3名程度

(3) 滞在期間

6日間(土日を含む)

※聖ラファエル校は、2週間の春休み期間(9月下旬から10月上旬)を利用して来日。

(4) 滞在形式

市内中学校へ通う生徒宅を家庭訪問(ホームビジット)

※派遣事業に参加したご家庭には、原則として、聖ラファエル校の生徒を受け入れていただくようお願いいたします。

(5) 交流内容

①学校体験	滞在先のホテルから登校します。お世話役の生徒のみなさんと一緒に学校生活を送ります。授業が終わったら一緒に下校し夕食まで過ごします。
②ホームビジット (家庭での受入れ)	聖ラファエル校の生徒は、日本の普段の家庭生活を体験することを目的に来白します。特別なおもてなしを行う必要はなく、普段の食事や生活習慣と一緒に過ごすことが重要となります。



(6) 食事について

ホストファミリー説明会(9月中旬予定)の際に、受入生徒の好き(嫌い)な食べ物やアレルギーなどの基本情報をお渡しします。生徒によっては、食べられないもの(苦手なもの)が多い場合や普段から間食としておやつをたくさん食べている場合があります。

日本料理にこだわらず、いつも作っているハンバーグ、から揚げ、カレーライスといった誰にでも好まれる料理を出したり、日本の食文化(納豆、梅干し、のり、漬け物など)については無理強いさせたりせずに、「試してみますか?」ときいてみましょう。

(7) 金銭の負担について

基本的には、滞在中の食事や集合場所までの送迎にかかる費用、入場料などを負担していただきます。一方で、受入生徒の個人的な経費(本人がお土産として買う代金など)は、受入生徒本人の負担となります。

(8) 聖ラファエル校からお願いされていること

日本の、都会ではない、普段の家庭・学校生活を学ぶことを目的に白石を訪問します。特別なおもてなしを行う必要はなく、普段の食事や生活習慣を通して日本の家庭を体験させてほしいとお願いされています。

(9) ホストファミリーの皆さまにお願いすること

内容	生徒	保護者
①ホストファミリー説明会への参加	●	●
②顔合わせ会への参加(予定)	●	●
③滞在中の食事の提供		●
④夕食後の滞在先のホテルまでの送迎		●
⑤学校体験日の下校	●	
⑥学校体験中のお世話役	●	
⑦放課後や休日の対応	●	●
⑧お別れ日のお見送り	●	▲*

※▲は、可能な限りのご対応をお願いしています。

※①の説明会には、これまでにホストファミリーを経験したご家族に出席していただく予定です。

(10) その他

ホストシスター/ブラザーは、家庭訪問中や学校体験など日常生活の中での世話役となります。ご家族の協力が必要ですが、生徒本人がお世話役を希望する気持ちが一番重要となります。

(11) 心得

①受入生徒は「お客様」ではありません。家族の一員としてお迎えしましょう。
②家庭訪問は、国際理解を深めるために「善意」「協力」「感謝」の心によって行われるボランティア活動です。 過度なおもてなしや金銭面で負担とならないように心がけましょう。
③堪能な英語力(英会話力)は必要ありません。また、たどたどしい会話もこの交流の醍醐味です。 翻訳アプリやジェスチャーを積極的に使い、楽しく交流することを大切にしましょう。
④家庭内のルールをしっかりと説明し、お互いが気持ちよく生活できるように心がけましょう。 生活習慣は「違って当たり前」と考え、遠慮せずにルールや気持ちを伝えましょう。伝えることで受入生徒が日本文化や習慣を学ぶチャンスとなります。
⑤家族みんなで協力しましょう。家族で役割を決めるのも成功の秘訣です。

8 これまで受入事業に参加した保護者の感想

1. 初日(平日)の過ごし方を具体的に教えてください。

- ◆ヨークベニマルで、食べてみたいものや興味のあるお菓子などを買って、家でお互いに緊張しながら会話をした。
- ◆ラム肉を一緒に食べた。家の中の案内や互いの平日のタイムテーブルを確認した。
- ◆夕食は本人の希望でお寿司にした。その後は、マリオカートをした。
- ◆受け入れた生徒が好きなおアニメと一緒に観た。夜ご飯は手巻き寿司を用意した。
- ◆夜は手巻き寿司パーティでお刺身にトライ。焼肉も巻いた。子どもたちがおしゃべりの間に私は片付け。その後リビングでお手紙とプレゼントをもらった。子どもたちはテレビゲームをしていた。

2. 平日の過ごし方を教えてください。①

- ◆息子の児童クラブへ一緒にお迎えに行ってもらい、ホットプレートでお好み焼きと焼きそばを作るのを手伝ってもらった。お好み焼きのひっくり返して盛り上がった。
- ◆前日の会話で、チャレンジしたい食べ物はラーメンと聞いたので幸楽苑に行った。お箸の使い方が上手で、ラーメンは口に合ったらしく完食。
- ◆マックで夕食。学校での出来事を聞かせてもらった。帰りに、生協でお菓子を買って、帰宅後、子どもたちはお菓子を食べながらジェンガを楽しんでいた。
- ◆夕方、学校近くで待ち合わせをして、スーパーでお買い物。夕食に食べたいものを選んだ。
- ◆初めての日本の中学校生活を楽しみにしている様子だった。この日の学校では、体育のバスケットで大活躍だったようだ。帰宅後、スーパーで買い物をし、お寿司屋さんで夕食。子どもたちがお寿司のネタを英語で説明していた。帰宅後、花火をした。
- ◆たこ焼きパーティをした。
- ◆公園でフリスビーやボール遊びをした。夜ご飯は、娘と一緒にカレーを作ってくれた。

3. 平日の過ごし方を教えてください。②

- ◆カウラで娘がお世話になったホストファミリーとテレビ電話をした。
- ◆会話でマックよりピザが好きということでピザを食べた。明日の予定を話しながら、緊張も少しずつなくなり、一人になって家族に電話したりしていた。
- ◆本人の希望でパイレーツオブカリビ안의映画を鑑賞。音声を英語にしたので喜んでた。
- ◆この日は部活動へは行かず、名取のショッピングモールに行き、オーストラリアへのお土産を購入し、ゲームセンターで遊んだ。UF0 キャッチャーがお気に入りだった。夕食はフードコートでケンタッキー・フライドチキンを食べた。みんなでお揃いのプレスレットを作るため、材料を買い、プレスレットを作った。
- ◆学校体験最終日、クラスメイトにカバンにサインしてもらったと帰ってきた。夕食は焼肉。オーストラリア牛と仙台牛を食べ比べたり、いろんなタレにトライしたり（自分の家では塩がほとんどだそう）。食事の際に末っ子の娘が眠ってしまうと優しく手を直してくれ、「静かにね…」というジェスチャーをしてくれ、家族の一員のように感じた。
- ◆ホームシックになったようで、部屋でゆっくり休んでもらった。ずっと食事あまり食べてなかったのも、夜はみんなでココスへ行き、好きなものを選んで食べてもらった。
- ◆帰宅後は、少しのおやつとリラックスタイムを作った。17時に手作りの牛丼を食べた。

4. 休日、他のホストファミリーと全員一緒に過ごした感想を教えてください。

※土曜日の朝、お寺で座禅体験➡鬼小十郎まつり見学➡夕食は焼肉パーティ

- ◆座禅体験は、日本人でもなかなか体験できるものではないので良かったと思う。焼肉では、子どもたち同士でとても楽しそうに交流していて笑顔も見られ、リラックスして過ごせていた。親にとっても過ごし方の情報交換ができ、息抜きになり、良い時間を過ごせた。
- ◆オーストラリアの生徒も一緒に過ごしたこと、息子も日本人の友達がいたこともあり、リラックスムードで過ごせていた。英語と日本語が飛び交っていた。娘もオーストラリアの女子生徒と仲良くなり、家族みんなが満足して帰ることができた。
- ◆この日は座禅体験と焼肉で、久しぶりに全員と会って集まることができ、お互いにホッとできる時間だった。毎日の食事に心配が多かったのも、夕食の心配がないのも安心だった。
- ◆焼肉は有志の企画だったが声を掛けたところ全家庭が参加してくれ、皆さんの団結力を感じた。情報交換もできて保護者にとっても良かった。
- ◆食べ放題のルールやマナーを教えることは必須。

5. 休日の過ごし方を教えてください。

- ◆娘の発表会で塩釜へ。リハーサルや本番舞台を見学した。帰りに、アウトレットモールでお土産を購入。夕食は希望があったので寿司屋へ行った。
- ◆ちょっと疲れている様子だった。この日は家族みんなで過ごせる最後の日で、家族へのお土産を買いたいとのことで福島のイオンへ行った。
- ◆午前中はうみの杜水族館へ。帰り道にまたゲームセンターで遊びたいとリクエストがあったので、名取のショッピングモールへ。夕食はお寿司を作ってみたいとのことで、かっぱ巻きなどを作った。
- ◆家族で松島や水族館へ行った。遊覧船に乗って、手焼きかまぼこ体験や牡蠣カレーパンを堪能。
- ◆兄弟の高校の文化祭に10時から14時まで一緒に参加した。抹茶に挑戦、陶芸ではお皿と入れ物を1時間かけて作成した。昼食は学校でカレーを食べた。和太鼓、吹奏楽、合唱など生徒の発表を鑑賞した。
- ◆フルーツ狩りとVSパークのどちらがいいかを選んでもらって、イオンモール利府のVSパークへ。受け入れた生徒はうちの子どもたちを上手に誘って巻き込んで、ずっと一緒に楽しく遊んでくれて感動した。帰宅後はみんなでダンス動画を撮ったり、漢字の名前をつけて練習したり、庭で花火をしたりしていた。

6. 困ったことや苦労したことがあれば具体的に教えてください。

- ◆英会話は困ったが、簡単な単語やスマホを使って乗り切った。Wi-Fi に関してはパスワードを伝えて繋ぎ、困った様子はなかった。
- ◆SIM カードを買いたいと平日に言われたが時間がなく休日になってしまった。早めに手に入っていたらもっと安心して過ごせたかなと感じた。家では部屋で家族や友人と電話などで会話できたと言っていた。
- ◆食事が苦勞した。食べてくれるものがわかるまでは時間がかかった。Wi-Fi で困ったことはなし。スマホでカウラの家族とテレビ電話したり出来た。
- ◆息子と同じアプリを使って英会話や日本語の練習をしていたようで、ふたりで遊んでいた。
- ◆家のトイレが自動で流れる説明を事前にしてなかったことと、トイレにはたくさんの機能のボタンがあって最初困っていたようだった。その説明を英語でするのが難しかった。
- ◆アレルギーがないようだったのでホッとしたが、(もともと食が細いのかもしれないが) 何を出してもあまり食べなかったで、食事は本当に悩んだ。本人に食べたいものがないか聞くと、何でも大丈夫とは言ってくれたが、家族と離れて過ごすのは初めてだったようで、すぐホームシックになってしまったようだった。食欲がないのもそのせいもあったようだ。
- ◆受け入れた生徒は、あまりスマホを使用する様子もなく、リビングに置きっぱなしにすることもしばしばあった。風邪気味だったようで、薬が欲しいと言われたが身体に合っているものか少し心配だった。半袖で過ごしていた。
- ◆Wi-Fi について、我が家の Wi-Fi を使わず自力でやっていたようで、こちらが後から「気付かずごめんね」と声を掛けたが特に問題ないようだった。困ったことは文化の違い。①食事で気に入らないものは遠慮なく残す。②好きな物しか食べない。③ビュッフェレストランで残す。④レストランでは騒々しい。

7. 良かったことや思い出に残ったことがあれば教えてください。

- ◆受け入れた生徒が明るくとても良い子だったので、5泊6日間のすべてが良い思い出。
- ◆座禅体験で日本文化を体験できた。娘の発表会で、ほかの発表会に出る子たちみんなが積極的にコミュニケーションを取っていたこと。
- ◆とても優しい生徒で、祖父と祖母とも積極的に話していた。鬼小十郎まつりでは、甲冑を着てとても嬉しそうだった。
- ◆焼肉パーティ後、受け入れた生徒から、「このような全員が集まる会を開いてくれてありがとう！」と感謝された。下の娘が仲良しになって英会話教室に通うことになった。英語をたくさん話せるようになって会いに行きたいと言っていたので、親としてとても嬉しく思う。
- ◆普段体験することができないことが沢山体験できたことが思い出。座禅もだが、白石市民なのに鬼小十郎まつりも行ったことがなく初めて見た。日本や白石について学ぶことが多かった。また、普段ならご飯の後は、家族それぞれの部屋で過ごすのが、受け入れ中はみんながリビングに集まり一緒にゲームをしたり、会話を楽しんだりしたことも良かった。
- ◆日本の文化に触れ、慣れようとする姿が印象的だった。素晴らしいオーストラリアの生徒とご家族とのご縁を頂いたと感謝している。
- ◆受け入れた生徒と娘の二人とも物を作ることが好きで、共通の趣味として、水引を使った小物作りを楽しんでいた。彼女が帰った後気付いたのだが、日本語で感謝のメッセージと一緒にコアラのマスコットが置かれていた。
- ◆子どもたちにとってネイティブの英語に触れられる機会は本当に貴重だった。オーストラリアとの文化の違いも興味深かった。向こうの家族とビデオ通話をしたが英語が全く理解できず。
- ◆漢字で名前を考えてあげたら、それをメールでの自分の名前に使ってくれていたこと。娘がいない時は、家族の隣に座り積極的に会話をしようとしていた。食事については、普段通りの食事を出したが、全部の食べ物にトライしていた。向上心のある素晴らしい生徒だった。別れが辛くて、受け入れるまでは想像していなかったが、こんなに別れが辛いと思える関係を築けたことに驚いた。

8. 今後の受け入れる家庭に向けて、アドバイスがあれば教えてください。

- ◆会話は便利なアプリを駆使してたくさんコミュニケーションをとってほしい。我が家では、前もって受け入れる生徒の両親とメールのやりとりができたので良かった。普段食べているものや好き嫌い、性格について知ることができた。
- ◆事前に受け入れる生徒のプロフィールで好き嫌いの食べ物やアレルギーの有無などの情報を確認でき、直接相手とメールのやりとりもできるため、日本に来たらやりたいことや食べたいものなど聞けるので、食事の心配はそれほどしなくても大丈夫だと思う。ただ残食が多いのでびっくりするかも。こちらもフルタイムで仕事をしているので、無理をせず日々の普通の生活を一緒に過ごしてもらっていた。
- ◆普通の生活に受け入れが入ってくるので、ややせわしい日常にはなるが、ありのままを互いに受け入れるととてもよい時間を過ごせると思う。こちらがやってあげたいこと、本人がやりたいこと、半分くらいずつ取り入れて過ごす、互いにストレスなく過ごせるのではないかと感じた。
- ◆受け入れることに抵抗やプレッシャーがあったが、周りの人に助けられて何とかなるものだと感じた。みんなで支え合いながら過ごして、他のホストファミリーとも仲良くなれた。前年度の受け入れを断っていたので、「受け入れればよかった…」と今は思えるほどだ。思春期の子どもと距離ができる時期だが、今回の経験が子どもとの距離を縮めてくれた。受入家族の英会話レッスンがあったらいいと思った。
- ◆食べ物は、食べられないものは絶対食べない。嗜好品を考慮して食事を用意した方がよい。
- ◆どの家庭も食事は一番悩むと思う。いつも通りの食事がかまわないと言われたが、すごく考えた。食べられない時のことも考えて、選べるように何種類かおかずがあるといいかも。初めて海外の学生を受け入れて、一人になる時間と空間を作ってあげることは大事だと思った。
- ◆家族みんなの視野が広がりました。ぜひ、他の生徒さんにも体験してほしいです。翻訳アプリがあれば、言葉の問題はほとんどありません。
- ◆受け入れた生徒のご両親に、白石滞在の様子が分かるように写真をメールで送りました。とても喜んでもらえて良かったです。
- ◆最初は不安に思っていました、あつという間でした。家族のチーム力というか、協力し合って笑顔でお迎えすることが大切だと思いました。

9. 派遣事業、受入事業全体を通しての感想を教えてください。

- ◆今回の受け入れでホストファミリーのみなさんがとても良い人たちばかりで、「子どもたちがストレスなく過ごせるようにみんなで集まろう！子どもたちにこんな体験をさせてあげたい！」と、率先して計画し動いてくださる方が多く、感謝の気持ちでいっぱいだった。困ったことがあっても事務局の方へ相談し、また、親同士で助け合うことができ本当に助かった。子供だけでなく、家族にとってもとても良い経験になった。本当にありがとうございました。
- ◆説明会の時、受け入れを経験したホストファミリーの方々のアドバイスがとても参考になった。
- ◆子どもと趣味が合って、少なからず心は通じ合ったのではと思う。高校生を受け入れるということで心配したが、小学生の妹への配慮や家族への気配りができることに感心した。少し早く高校生の親になれたことも貴重な経験となった。様々な面でサポートして下さった皆さんに感謝して過ごしたいと思う。
- ◆とても楽しくて、あつという間に時がすぎて、帰国時はとてもつらかったです。顔合わせの時間を作ってもらったことも良かったですし、ビジットという形での受け入れも良かったです。
- ◆本当は、泊まってほしい、と思っていましたが、ホテルに戻って友だちと会って話をすることでストレスを溜めず楽しく過ごせていたので、ホームビジットで良かったかな、と思います。
- ◆子どもにとっても親にとってもいい経験になりました。直接ネイティブな英語に触れる機会はなかなかないので貴重な時間を過ごせました。同性の子の受け入れだと思っていましたが、異性の受け入れをお願いされました。最初は少し不安もありましたが、実際受け入れしてみて感じたことは、日本ほど『男の子』『女の子』というくくりはないのかなと感じました。とても礼儀正しく、コミュニケーションをとろうと頑張っている姿を見て、私たちも楽しい時間を過ごしてもらいたいと思い、みんな一所懸命でした。貴重な体験をありがとうございました。

- ◆あつという間で夢のような5泊6日でした。息子がカウラでお世話になってからずっと楽しみにしていたので、私も家族も別れることがとても寂しかった。全員集合した座禅会や焼肉パーティを通して他のメンバーと交流できたこともお互いにとって実のある時間だったと思う。海外のお子様をお預かりするに際し、不明な点、不安な点は事務局の方々が解決してくれた。子どもには「海外にも家族ができた」という意識がある。お互いにそう思って日々を過ごし成長していけたら、また行き来できる日が来るのだろうと思う。
- ◆また受け入れたい！
- ◆受け入れた本人もそうですが、大学生の姉がとても積極的に英語で話したり、祖母が身振り手振りで交流したりと、家族にとっても楽しい機会でした。

9 これまで受入事業に参加した生徒の感想

1. 学校での休憩時間はどのように過ごしましたか？

- ◆私のクラスや他のクラスの生徒、他の学年の生徒ともたくさん話をしていた。
- ◆他の日本人の友達から様々な質問を受けていた。また、聖ラファエル校の生徒同士でも会話を楽しんでいた。
- ◆クラスメイトが話しかけてくれ、次の授業の説明やクラスの移動、持ち物の確認などをした。
- ◆日本の学校について説明した。
- ◆ホールに行ってみなんとたくさん話していた。また、何回か「トイレ大丈夫？」と聞き、不安にならないよう近くにいた。

2. 派遣事業、受入事業全体を通しての感想を教えてください。

- ◆自分の英語の幅を広げること、他の国の文化を知ることができた。
- ◆今回が2回目の受け入れだった。オーストラリアの生徒とたくさん話せてとても楽しかった。
- ◆私が受け入れた生徒は、自分がお世話になったホストブラザーではなく少し残念だったが、新たな人と関わる楽しさを知ることができた。また、共通の趣味である野球を楽しめたのは、お互い良い思い出になったと思うし、野球部にもいい影響になったと思う。
- ◆オーストラリアでは自分のことで精一杯だったので、今回の受入事業で知らなかった彼女の一面を知れてよかった。またこのような機会があれば参加したいと思った。
- ◆日本の文化に触れているときや、オーストラリアは一面の草原だったので、白石城など景色を楽しんでいた。みんなが集まって聖ラファエル校の生徒たちと交流すると、日本での不安な気持ちが安心できているように見えた。
- ◆日本でオーストラリアの生徒のサポートをすることが楽しかった。英語に対する壁があったが自然と話せるようになった。国籍は違うけど、同じ時間を過ごして楽しいことをすることがとても不思議で、充実した時間になった。そして、受け入れを行ったことで、日本で当たり前だと思っていたことがそうでないと気づき、たくさんのいい刺激をもらった。また、オーストラリアの自然を愛している姿が見られたときもあり、私も見習いたいと思った。
- ◆楽しかったことを聞かれたら一つに選べないほど、一つ一つのことが思い出で、姉妹になった気持ちでとても楽しかった。家族は私よりも寂しくなっていたので、また家族で会いたい。
- ◆文化の違いをたくさん感じたが、受け入れた生徒は日本文化に興味があってよかった。

10 よくある質問

Q. どのような食事を出せば良いですか？

A. 多くの生徒は、2つのタイプに分類できます。

①なんでも挑戦する積極的タイプ

日本料理やこれまで食べたことのない料理に対して積極的に挑戦するタイプ

②普段食べているものを好む安定タイプ

普段、オーストラリアで食べているものを好み、初めて食べるものに対して抵抗を持つタイプ
気に入らないもの、嫌いなものは、平気で残すし、絶対に食べない

どちらのタイプでも、まずは食べたいもの・食べられるものを聞いてみるのが大切です。

5日間という短期間の家庭訪問ですので、日本料理にこだわらず、食べられるものを提供し、楽しく過ごせる環境づくりをしてみましょう。

Q. 部屋が狭いけど大丈夫ですか？

A. 全く問題ありません。

日本の家屋は、オーストラリアの家屋と比べると小さいことを理解しています。大切なことは、聖ラファエル校の生徒にとって、「居心地の良い空間であること」ですので、ウェルカムボードを作ったり、家族紹介のイラストや寄せ書きを書いたり、心温まる雰囲気作りを試みるのも良いかもしれません。

Q. 自由時間はどのように過ごしたらいいですか？

A. 〈屋内プラン〉

- ・料理を一緒に作る、家事を手伝ってもらう
- ・親戚、友人、地域の方を誘って交流をする
- ・ゲーム、トランプ、あっち向いてほいなどで遊ぶ
- ・楽器の演奏、折り紙、趣味で楽しむ
- ・昼寝をする ※慣れない環境で疲れている生徒も多くいます。

〈屋外プラン〉

- ・まつりや地域活動への参加
- ・スポーツ(怪我には十分に注意し、負担のない範囲で)
- ・近場へのお出かけ(神社、お寺、スーパー、武道場、足湯、温泉など)
- ・他のホストファミリーと集まってバーベキューなど、一緒に食事や行動をする

<全員集合プラン>

- ・全員が集まる食事会などを企画・実行する

Q. 英語を話せないけど大丈夫ですか？

A. 聖ラファエル校の生徒や教員は、私たちがうまく英語を話せないことを理解しています。

また、気持ちを通わせること(心の交流)の大切さを深く理解しています。

これまでの参加者の多くは、ジェスチャーや知っている単語、翻訳アプリを使うなどして、交流を深めていました。「いただきます」や「ごちそうさまでした」「おはようございます」など、簡単な日本語を教えることもとても良い交流になります。

Q. 他のホストファミリーのみなさんが、どのように過ごしているか気になります。

A. 令和6年度のホストファミリーのみなさんは、9月に行った説明会終了後、グループLINEを作り、情報共有をしていました。また、土曜日の夕食は、レストランで全員が集まり、お互い集まったことで、オーストラリアと日本の生徒が安心できたようです。ホストファミリーのみなさんにとっても、夕食の手間が省けたり、親同士もお互いの予定を聞き合ったりと、良い時間を過ごせたそうです。